

令和4年度(令和5年度集計)体罰およびセクシュアル・ハラスメントに関する調査結果について

〈アンケートの考察〉

本年度のアンケート調査から

1 調査対象者数

全調査対象数 70,163人 全回答者数54,409人 回答率 77.5%

学 校 種		4年度計	小学校(108校)	中(中等)学校(55校)	高等学校(2校)	特別支援学校(3校)
児童生徒・保護者	調 査 対 象 者 数	70,163人	45,577人	22,983人	1,192人	411人
	回 答 者 数	54,409人 77.5%	35,320人 77.5%	17,786人 77.4%	1,007人 84.5%	296人 72.0%

全調査対象数 6,681人 全回答者数5,191人 回答率 77.7%

学 校 種		4年度計	小学校(108校)	中(中等)学校(55校)	高等学校(2校)	特別支援学校(3校)
教職員	調 査 対 象 者 数	6,681人	4,117人	2,101人	201人	262人
	回 答 者 数	5,191人 77.7%	3,172人 77.0%	1,656人 78.8%	158人 78.6%	205人 78.2%

2 体罰調査結果(児童生徒・保護者)

体罰と判断される行為等の件数

学 校 種		計		小学校		中(中等)学校		高等学校		特別支援学校	
				件 数		件 数		件 数		件 数	
分 類		4年度	3年度	4年度	3年度	4年度	3年度	4年度	3年度	4年度	3年度
体罰と判断される行為		1	(2)	1	(1)	0	(1)	0	(0)	0	(0)
場 面	授業中	1	(1)	1	(1)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
	部活動中	0	(1)	0	(0)	0	(1)	0	(0)	0	(0)
	その他(掃除中や休み時間など)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
態 様	強く叩く、殴る	0	(1)	0	(0)	0	(1)	0	(0)	0	(0)
	蹴る	1	(0)	1	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
	壁に押し付ける、転倒させる等	0	(1)	0	(1)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
	正座、直立等特定の姿勢を長時間保持	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
	その他	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)

学 校 種		計		小学校		中(中等)学校		高等学校		特別支援学校	
				件 数		件 数		件 数		件 数	
体罰以外と判断される行為		4年度	3年度	4年度	3年度	4年度	3年度	4年度	3年度	4年度	3年度
① 不適切な行為 (不適切な指導・行き過ぎた指導など)	受けた	55	(53)	43	(36)	11	(16)	1	(1)	0	(0)
	見た	85	(92)	62	(59)	19	(30)	4	(2)	0	(1)
② 言葉の暴力(暴言等)	受けた	128	(140)	80	(84)	46	(56)	2	(0)	0	(0)
	見た	113	(125)	81	(75)	29	(50)	3	(0)	0	(0)
③ 指導の範囲内である行為	受けた	45	(77)	31	(50)	12	(27)	2	(0)	0	(0)
	見た	83	(83)	65	(64)	18	(18)	0	(1)	0	(0)
①～③の合計数	受けた	228	(270)	154	(170)	69	(99)	5	(1)	0	(0)
	見た	281	(300)	208	(198)	66	(98)	7	(3)	0	(1)
		509	(570)	362	(368)	135	(197)	12	(4)	0	(1)

3 セクシュアル・ハラスメント調査結果（児童生徒・保護者）

教職員から受けたセクシュアル・ハラスメントの分類		計		小学校		中（中等）学校		高等学校		特別支援学校	
		4年度	3年度	4年度	3年度	4年度	3年度	4年度	3年度	4年度	3年度
① 性的な話を言われ、不快であった。 （授業に直接関連する内容は除く）	受けた	2	(0)	0	(0)	2	(0)	0	(0)	0	(0)
	見 た	4	(0)	1	(0)	3	(0)	0	(0)	0	(0)
② 身体に触られ、不快であった。	受けた	6	(9)	1	(7)	5	(2)	0	(0)	0	(0)
	見 た	9	(8)	2	(4)	7	(4)	0	(0)	0	(0)
③ 容姿を話題にされ、不快であった。	受けた	3	(0)	0	(0)	3	(0)	0	(0)	0	(0)
	見 た	2	(5)	1	(1)	1	(4)	0	(0)	0	(0)
④ 性的内容の電話・手紙・電子メール等 をもらい、不快であった。	受けた	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
	見 た	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
⑤ その他	受けた	1	(6)	1	(2)	0	(4)	0	(0)	0	(0)
	見 た	2	(7)	2	(3)	0	(4)	0	(0)	0	(0)
①～⑤ の合計	受けた	12	(15)	2	(9)	10	(6)	0	(0)	0	(0)
	見 た	17	(20)	6	(8)	11	(12)	0	(0)	0	(0)
		29	(35)	8	(17)	21	(18)	0	(0)	0	(0)

4 教職員間におけるハラスメント調査結果

ハラスメントの分類		計	小学校	中（中等）学校	高等学校	特別支援学校
① 上司や同僚から厳しい叱責を受けた。	受けた	11	8	2	1	0
	見 た	9	4	5	0	0
② 人格を否定するような言動を受けた。	受けた	19	12	5	0	2
	見 た	9	6	2	1	0
③ 上司や同僚から無視された。	受けた	4	0	3	1	0
	見 た	0	0	0	0	0
④ 容姿・年齢・結婚・妊娠等を話題にされ、不快であった。	受けた	1	1	0	0	0
	見 た	0	0	0	0	0
⑤ 不必要に身体に触られ、不快であった。	受けた	2	0	2	0	0
	見 た	2	1	1	0	0
⑥ 執拗に交際を迫られ、不快であった。	受けた	1	1	0	0	0
	見 た	2	2	0	0	0
⑦ 性的な話を言われ不快であった。	受けた	0	0	0	0	0
	見 た	0	0	0	0	0
⑧ 性的内容の電話・手紙・電子メール等 をもらい、不快であった。	受けた	0	0	0	0	0
	見 た	0	0	0	0	0
⑨ 性的な関係を求められ、不快であった。	受けた	0	0	0	0	0
	見 た	0	0	0	0	0
⑩ その他	受けた	4	2	0	0	2
	見 た	5	5	0	0	0
①～⑩ の合計	受けた	42	24	12	2	4
	見 た	27	18	8	1	0

5 調査を踏まえた今後の対応

(1) 各学校での取組

- 教職員の人権感覚、指導力の向上
 - ・職員会議や打合せ等において、通知等の最新情報を基に、「暴力（いじめ、体罰、言葉の暴力、性暴力など）のない安全・安心な学校づくり」に向けた職員の意識啓発を進める。
 - ・不祥事防止のためのセルフチェックを計画的に実施する。
 - ・人権研修、コンプライアンス研修等の充実を図る。
アンガーマネジメント研修 子どもの話を聞きとるためのワークショップ 性暴力事案発生時の初期対応 性暴力のない安全・安心な学校づくり 性暴力理解（学校における性暴力防止について） こども基本法と子どもの権利について リフカー研修 CAP研修
 - ・日常生活を人権の視点で見つめ直し、教職員の人権感覚を磨くために、チェック項目をコンプライアンス通信を通じて毎月配信する。
- 学校組織体制の強化
 - ・教職員の連携強化、児童生徒の共通理解と風通しのよい職場環境を作ることで、体罰・セクハラを未然に防ぐ。
 - ・事案発生時の初期対応フローに基づき、報告・連絡・相談を迅速・的確に行うとともに組織での対応や指導等、校内支援体制の構築を図る。
 - ・職員の悩み相談やメンタルヘルス対策の充実を図る。

(2) 教育委員会の取組

- 毎年4月を「生命（いのち）の安全教育月間」とし、子どもたちが暴力の加害者や被害者、傍観者にならないよう、全市立学校において子どもの権利や暴力から自分の心と体を守るための予防方法等について学ぶ機会を設ける。
- 令和5年4月に新たに設置した児童生徒性暴力等防止対策検討委員会において、実効性のある性暴力等防止対策について調査審議等を行うことで「暴力のない安全・安心な学校づくり」を推進する。
- 教職員に対し、こども基本法や子どもの権利に関する外部講師による研修等を実施することで、行動の振り返りや新たな気づきの機会を与え、人権感覚を醸成する。